

保健所における「小児肥満予防教室」への取り組み、ならびに、肥満児出現頻度と人口密度 (福岡)

(分担研究：小児肥満予防対策に関する研究)

1) 2) 3)
本田 恵、西岡 和男、田中 慶司

要約：平成2年発の「地域保健活動の充実強化について」に関する厚生省健康政策局長通知を受けて福岡県内各保健所でも平成3年度より「主婦等を対象とした保健福祉教室」が開かれており、その一環として小児肥満予防教室が開催されている。福岡県所轄の各保健所ならびに政令指定都市である福岡市の各保健所での小児肥満予防教室の開催状況の調査結果を報告する。また、福岡県内の3歳児で肥満度15以上の肥満傾向児の出現頻度は人口密度が小さいほど高いという結果が得られた。

見出し語：小児肥満予防教室、ママのドクター教室、3歳児の肥満度と人口密度

1、福岡市における実施状況

福岡市においては、「主婦等を対象とした保健福祉教室（以下主婦等の教室）」事業を「家庭の健康づくり教室」と呼称し、これを2つに分けて実施している。即ち①こどもの家庭看護教室と小児肥満予防教室を合体させた「ママのドクター教室」と②思春期教室としての「ティーンエイジャー教室」の2つである。

1) 実施方法

福岡市には7保健所があり、教室の実施回数やテーマの選び方には夫々の工夫がなされているが、共通していることは、基本的教室としては「知っ

ておきたい子供の病気」、「応急看護」、「子供のしつけ、母と子のきづな」、「子供の肥満と日常生活、食習慣」、「こどもの虫歯」、「成人病予防は小児期から」などのテーマを4～5項目（5項目は1保健所）取り上げ、これを1コースとして受講者を募り、応募者全員にコースとして勉強してもらう方法が取られていることである。7保健所中1保健所では同一内容を2コース募集としている。なお、他の2保健所では基本的教室とはテーマの異なる2回を1コースとして保健所外教室を開いている。

いづれの保健所も基本的コース教室の中に小児期からの成人病予防ないし肥満予防の項目を1回

-
- 1) 福岡市立こども病院 Fukuoka Children's Hospital
2) 福岡市衛生局参与 3) 福岡県保健環境部長

取り入れている。1回の時間は2～4時間で、医師による概説講演、栄養士による食事指導ならびに調理実習、個人指導、グループワークから成り立っている。

この教室のほか、3歳児検診時に肥満及びやせの児童に対する医師、栄養士の個別指導が実施されていることは当然である。

2) 参加人員

各保健所毎のコース応募人員は表1のとおりであり、最低65名から最高223名、総計1,021名の母親が受講している。

各保健所で各々2回実施したティーンエイジャー教室への参加者3,631人に対し約1/3弱である。

表1：ママのドクター教室開催状況（福岡市）

	コース設定	参加人員	肥満教室
H I	2コース：4回×2	214	1×2
H A	2コース：4回+2回	130	1+1?
C H	1コース：4回	65	1
M I	“：5回	155	1
J O	“：4回	119	1
S A	2コース：4回+2回	125	1+0
N I	1コース：4回	223	2
	合計	1021	

2、福岡県での対応

1) 小児肥満予防教室の実施状況

福岡県所轄の保健所では、主婦等の教室として、こどもの家庭看護教室、小児肥満予防教室、思春

期教室の3つが実施されている。県内21保健所のうち、肥満教室が開催されていないのは1保健所のみで、他の1保健所では看護教室と肥満教室を組み合わせたコースを設定している。

肥満教室は、講話、調理指導～試食、運動指導、個別指導によって構成されており、2～4講座が1教室コースになっている。1回の受講時間は2～4時間であり、1コース受講すれば最低4時間から最高12時間、平均7.11時間肥満教室に参加するように設定されている。各保健所ではこうしたコースを年間1～3回（平均1.7回）開催している。

肥満教室への参加者は、延1,597名であるが、1回あたりの平均受講者は25.4名である。なお、看護教室と肥満教室を組み合わせる1コースとした保健所では、1回あたりの受講時間4時間で4回で1コースとし、これを年間3コース開講しており、延参加人員550名1回平均45.8人が受講している。

看護教室と肥満教室を別個に実施した18保健所での各々の教室への1回平均参加人員をみると、看護教室28.4人、肥満教室25.4人であり、両教室への平均参加者数に大きな差はない。

2) 3歳児肥満度調査（平成3年度）

福岡県内36保健所で実施した平成3年度の3歳児検診を受診した男児21,870、女児20,787、計42,657名（受診率78.7%）の身長、体重計測値から村田の式によって肥満度を計算した結果、肥満度15以上の肥満児は、男児3.63%、女児4.19%、全体として3.90%であり、男児より女児に肥満度15以上の児の頻度が高い（ $P = 0.003$ ）。

平成2年度の3.66%に対して、平成3年度は肥満傾向児の頻度が高かった。

表2：人口密度と肥満傾向児の出現頻度（福岡県）

人口密度 人/km ²	男 児		女 児		合 計	
	受診者数	肥満児頻度	受診者数	肥満児頻度	受診者数	肥満児頻度
1000未満	5,274	4.04%	5,005	5.05%	10,279	4.53%
2500～	8,466	3.93%	7,837	4.43%	16,303	4.17%
5000～	4,275	3.30%	4,170	3.43%	8,445	3.36%
5000以上	3,855	2.75%	3,775	3.36%	7,630	3.05%
合 計	21,870	3.63%	20,787	4.19%	42,657	3.90%

また、市町村の人口密度別に肥満度15以上の児の出現頻度をみると、表2に示すように人口密度の低い地域ほど肥満児発現頻度が高いことがうかがわれる。

結語

福岡県内の保健所では、1保健所を除く他のすべての保健所で何らかの形で小児肥満予防教室が開催されている。

いずれの保健所でも、数回の受講を1単位コースとして受講者を募集しているが、福岡市および宗像のようにこどもの家庭看護教室と小児肥満予防教室とを合体させて1コースとし、「ママのドクター教室」として受講者を募集するのも受講者獲得にはよい方法と思われる。

一方、最近の肥満児増加傾向は都市型生活習慣に関係があると考えられているが、福岡県の場合には、人口密度の低い農山漁村地域に肥満度15以上の児の出現頻度が高かった。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:平成 2 年発の「地域保健活動の充実強化について」に関する厚生省健康政策局長通知を受けて福岡県内各保健所でも平成 3 年度より「主婦等を対象とした保健福祉教室」が開かれており、その一環として小児肥満予防教室が開催されている。福岡県所轄の各保健所ならびに政令指定都市である福岡市の各保健所での小児肥満予防教室の開催状況の調査結果を報告する。また、福岡県内の 3 歳児で肥満度 15 以上の肥満傾向児の出現頻度は人口密度が小さいほど高いという結果が得られた。